

## (6) 博物館等

## 1) 施設概要

## ① 施設一覧

本市では、博物館等として3施設を設置しています。

民俗資料館は平成27年度よりふるさと歴史館としてリニューアルしています。

表 施設一覧

名称	所在地	延床面積 (㎡)	建築 年度 (年度)	構造 (主たる 建物)	備考
1 常陸風土記の丘	染谷1646番地	2,457.98	平成2	W造	古代家屋・鹿の子史跡公園 古代家屋含む
2 ふるさと歴史館 (旧民俗資料館)	総社一丁目2番10号	211.00	昭和48	S造	
3 農村資料館	大増1519番地	92.74	昭和26	W造	
合計		2,761.72			

※常陸風土記の丘には、常陸風土記の丘古代家屋、鹿の子史跡公園古代家屋を含みます。

## ② 事業内容

本市に係る歴史的文化遺産の収集、整理保管、展示

## ③ 開館時間等 (平成26年度)

名称	開館時間	閉館日
常陸風土記の丘	午前9時から 午後5時まで (11~2月:午後4時まで)	毎週月曜日(月曜日が国民の祝日の場合は翌日), 年末年始
ふるさと歴史館	午前10時から 午後4時30分まで	毎週月曜日(月曜日が国民の祝日の場合は翌日), 年末年始
民俗資料館	午前9時から正午 午後1時から午後4時30分まで	月曜~金曜, 年末年始 (但し要請があった場合は開館)
農村資料館	午前9時から 午後4時30分まで	毎週月曜日(月曜日が国民の祝日の場合は翌日), 年末年始

## ④ 利用方法

<常陸風土記の丘>

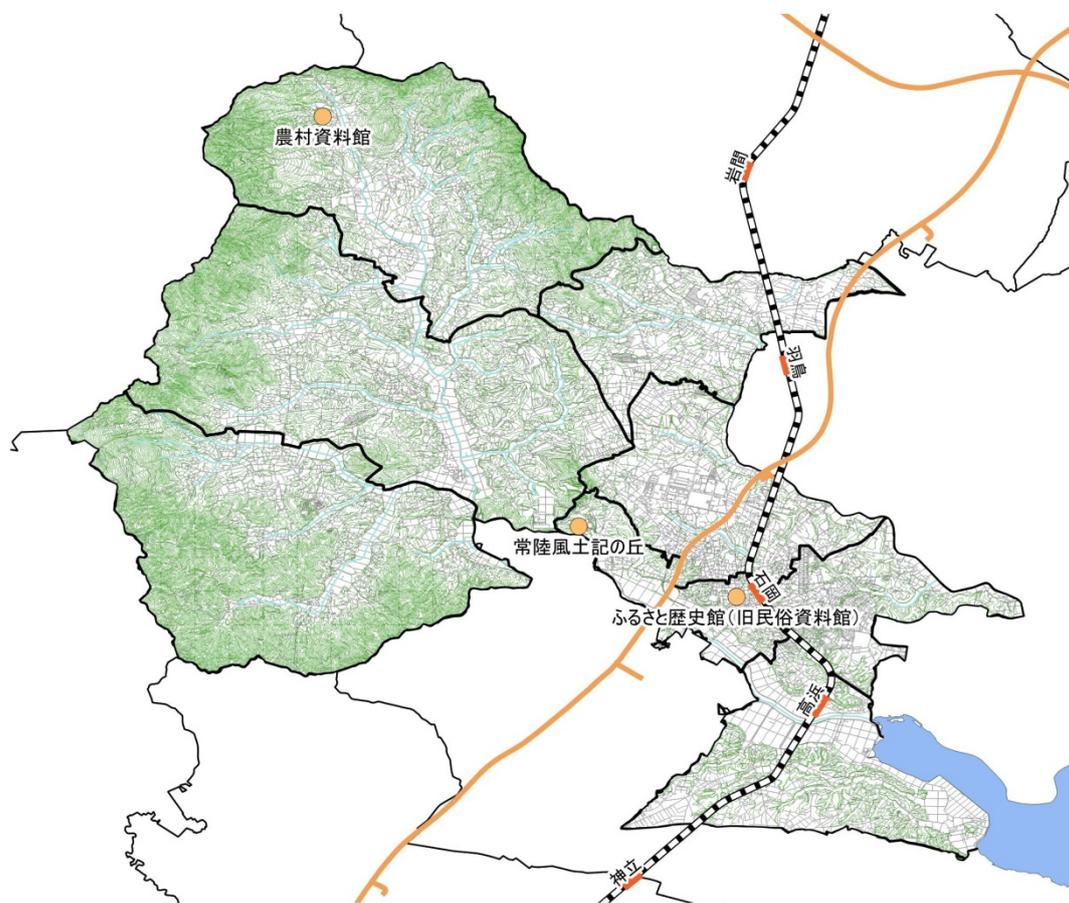
常陸風土記の丘は無料ですが、一部有料エリアがあります(常陸風土記の丘古代家屋・鹿の子史跡公園古代家屋・展示研修施設等)。体験教室は4日前までに予約申し込みが必要です。

<ふるさと歴史館・農村資料館>

ふるさと歴史館・農村資料館は無料です。農村資料館の見学希望は事前に連絡が必要です。

⑤ 配置状況

図 博物館等位置図



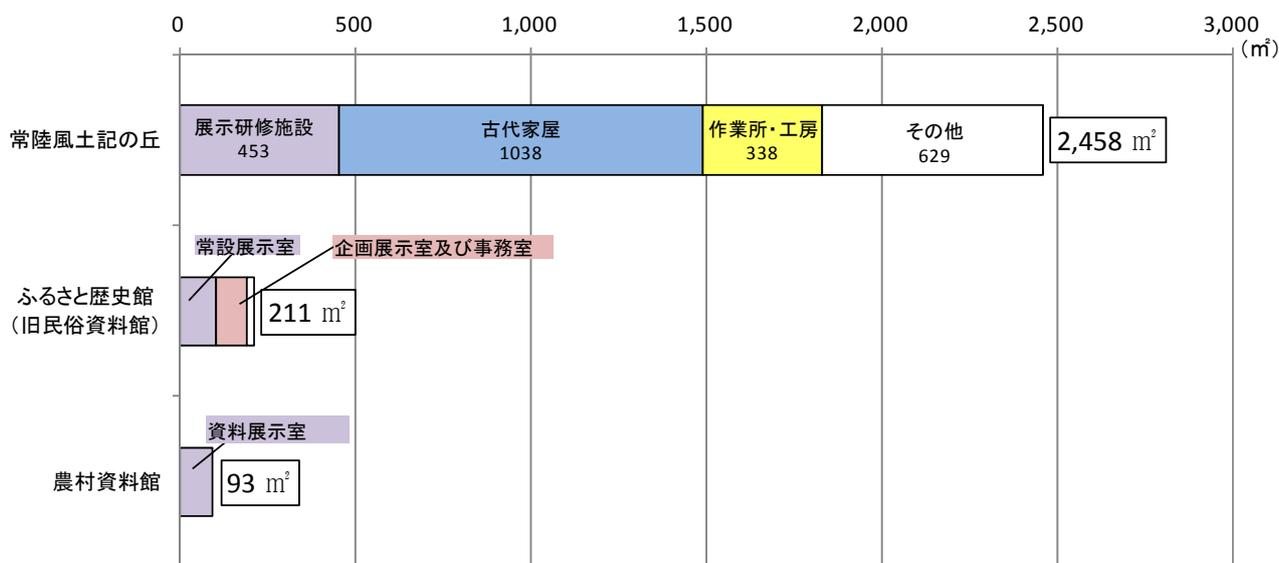
### ⑥ スペース構成

博物館等3施設の面積は常陸風土記の丘が2,458 m<sup>2</sup>、ふるさと歴史館（旧民俗資料館）が211 m<sup>2</sup>、農村資料館が93 m<sup>2</sup>となっています。

常陸風土記の丘には、独立した古代家屋等が公園内に点在する施設です。

ふるさと歴史館は常設展示のほか、企画展示を行うスペースがあります。

図 スペース構成



2) 実態把握

① 建物状況

■ 博物館の建物総合評価結果

平成 26 年度の博物館等の建物状況について、評価を行いました。

No.	施設名	基本情報		①耐震化	②老朽化			③劣化状況	④バリアフリー対応						⑤環境対応	⑥維持管理 床面積当たり (円/㎡)				
		建築年度	延床面積 (㎡)	耐震診断・耐震改修	築年数	直近の大規模改修	大規模改修または直近の年数	劣化問題回答評価	エシール	車いす用トイレ	障がい者用トイレ	車いす用スロープ	自動ドア	手すり	点字ブロック	太陽光発電の導入	自然エネルギー	環境対応設備	光熱水費	建物管理委託費
1	常陸風土記の丘	平成2	2,458	不要	25	-	25	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	指定管理委託費に含むため評価しない		
2	ふるさと歴史館(旧民俗資料館)	昭和48	211	不要	42	-	42	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	1,559	1,341	0
3	農村資料館	昭和26	93	不要	64	-	64	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	0	1,262	0

記載例

○:劣化がみられないもの  
△:一部に劣化がみられるもの・不明  
×:屋根・外壁等の重要部位に劣化がみられるもの

④  
⑤

○:実施済  
△:一部実施・不明  
×:未実施

※1 手すり・鏡・低い操作ボタン等  
※2 節水型便器、高効率照明器具・LED照明、雨水・中水設備  
※①の「不要」には、耐震診断の結果耐震補強が不要な施設と、新耐震基準施設のため不要な施設が含まれる。

耐震対策が急がれる施設はありませんが、ふるさと歴史館及び農村資料館は築40年を超えており、老朽化の進行が懸念されます。常陸風土記の丘も築20年を超えており、老朽化対策の検討が必要です。劣化状況は重要部位に大きな問題は出ていません。バリアフリー対応は実施されていませんので、これらの要素も含めて、計画的に老朽化対策を実施されるのが望ましいと考えられます。

評価	パターンⅡ 老朽化	パターンⅣ 今後老朽化
	評価	<p>・老朽化が進行している ⇒建替え又は大規模改修などの老朽化対策の検討が必要な施設</p>
該当施設	<p>該当施設 建築年度</p> <p>ふるさと歴史館(旧民俗資料館) 昭和48</p> <p>農村資料館 昭和26</p> <p>&lt; 2 施設 &gt;</p>	<p>該当施設 建築年度</p> <p>常陸風土記の丘 平成2</p> <p>&lt; 1 施設 &gt;</p>
コメント	<p>・築40年以上と老朽化がかなり進行しており、大規模改修工事などの早急な対応が必要です。</p>	<p>・新耐震基準の建物ですが、築20年を超えており、計画的な老朽化対策の検討が必要になっています。</p>

② 利用状況

■ 全体の利用状況

平成 26 年度の博物館等の全施設年間利用者数は 12,497 人となっています。施設別では常陸風土記の丘が 9,461 人、ふるさと歴史館は 2,892 人、農村資料館は 144 人です。常陸風土記の丘は無料施設もあり、135,550 人の利用があります。

また、曜日別の利用者数をみると、農村資料館は、平日利用が多く、常陸風土記の丘及びふるさと歴史館は土曜、日曜、祝日の合計が平日をやや上回る状況となっています。

図 年間利用者数（平成 26 年度）

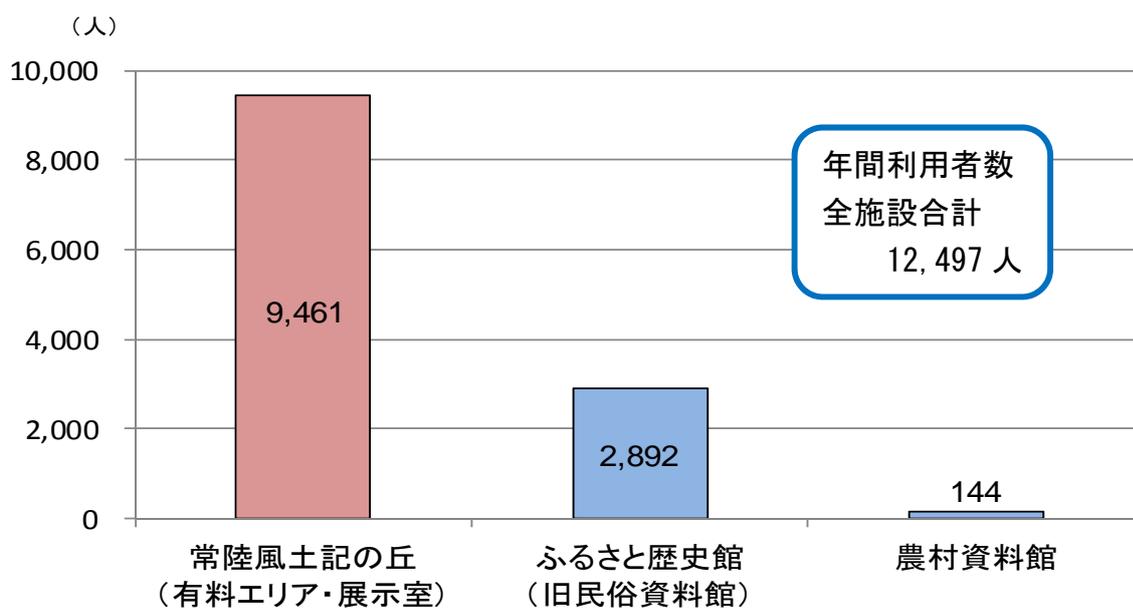
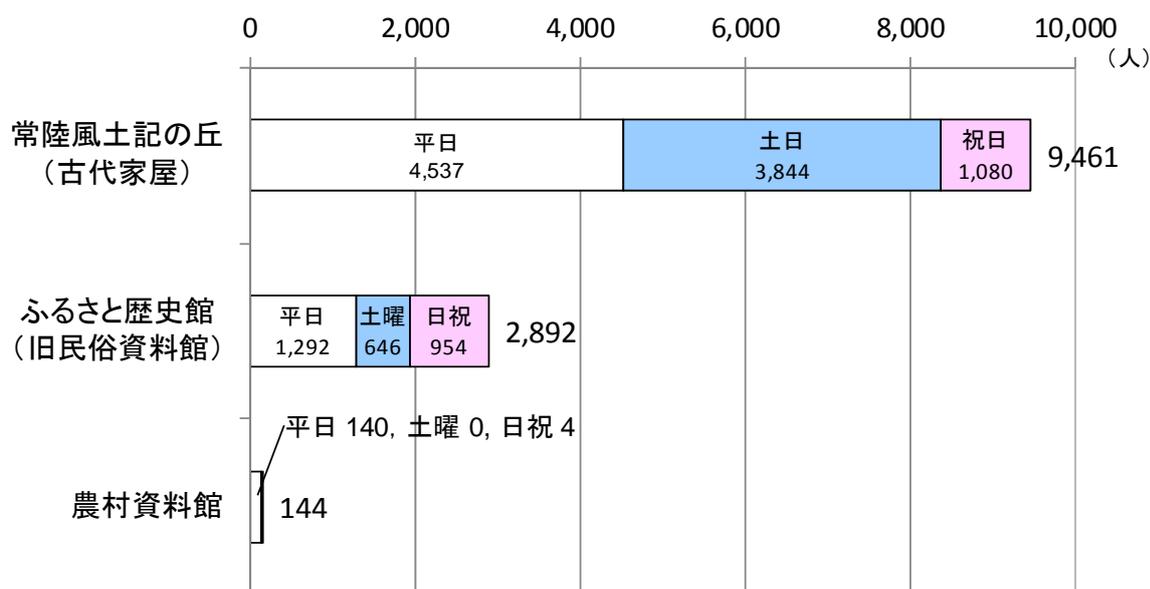


図 曜日別利用者数（平成 26 年度）



常陸風土記の丘全体の利用者数・利用料金の年度推移をみると、平成22年度の15.8万人から平成26年度の14.5万人と、やや減少傾向にあります。

ふるさと歴史館（旧民俗資料館）の年間利用者数の推移は、平成22年度の2,744人から平成26年度の2,892人と、微増状況にあります。

農村資料館は平成22年度の209人から平成26年度の144人へと減少しています。

図 常陸風土記の丘 年間利用者数・利用料金の推移

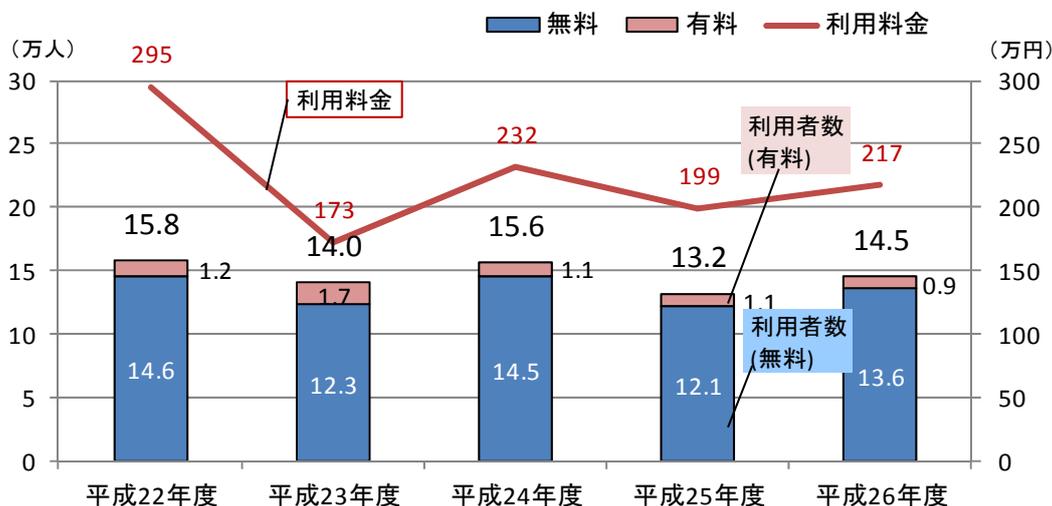
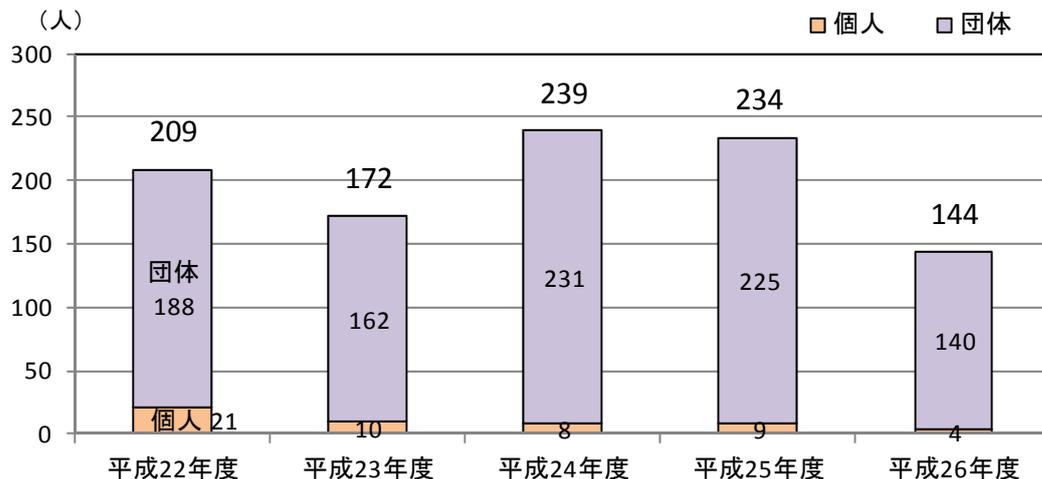


図 ふるさと歴史館（旧民俗資料館） 年間利用者数の推移



図 農村資料館 年間利用者数の推移



## ③ 運営状況

## ■ 運営人員

管理運営形態は常陸風土記の丘が指定管理方式、ふるさと歴史館及び農村資料館が管理委託方式となっています。

運営人員は常陸風土記の丘が一般職員 4 人、臨時職員 11 人の合計 15 人、ふるさと歴史館及び農村資料館がその他職員が 1 人となっています。

表 運営人員（平成 26 年度）

(人)

		常陸風土記の丘	ふるさと歴史館 (旧民俗資料館)	農村資料館	合計
管理運営形態		指定管理	管理委託	管理委託	
施設維持管理	一般職員	0.5			0.5
	臨時職員	2.0			2.0
	計	2.5			2.5
事務・庶務	一般職員	3.5			3.5
	臨時職員	5.0			5.0
	計	8.5			8.5
受付案内・厨房・ 接客・売店・営業等	臨時職員	4.0			4.0
	その他職員		1.0	1.0	2.0
	計	4.0	1.0	1.0	6.0
合計	一般職員	4.0			4.0
	臨時職員	11.0			11.0
	その他職員		1.0	1.0	2.0
	合計	15.0	1.0	1.0	17.0

## ■ 運営体制

常陸風土記の丘は、15 人のローテーションで常時 9 人体制で運営しています。

ふるさと歴史館（旧民俗資料館）は、その他職員（ふるさと歴史館管理会会員）1 人の体制です。農村資料館は常勤はなく、地元在住施設管理者が来訪者要請時に対応する体制となっています。

図 運営体制（平成 26 年度）

常陸風土記の丘		8:30 9:00	16:00	17:15
	平日(火～金)・土・日曜日 ・祝日 運営体制 9人		指定管理者 一般職員 3人 指定管理者 臨時職員 4人	3月～10月 指定管理者 臨時職員(厨房) 2人
(ふるさと歴史館 旧民俗資料館)		10:00	16:30	
	土・日曜日・祝日 運営体制 1人 ※但し要請があった場合は開館		その他職員 1人	

## ④ コスト状況

博物館等の年間トータルコストは、7,274 万円です。

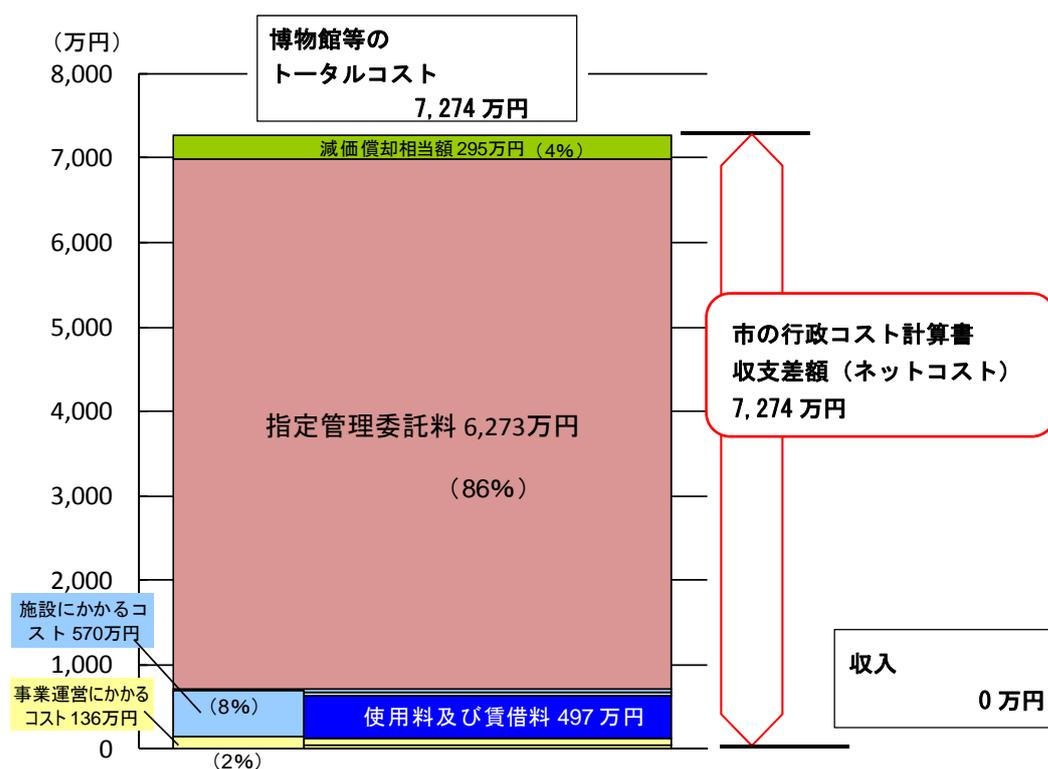
年間トータルコストのうち、施設にかかるコストは 570 万円 (8%)、事業運営にかかるコストは 136 万円 (2%)、指定管理委託料が 6,273 万円 (86%)、減価償却相当額が 295 万円 (4%) となっています。

表 施設別行政コスト計算書 (平成 26 年度)

(千円)

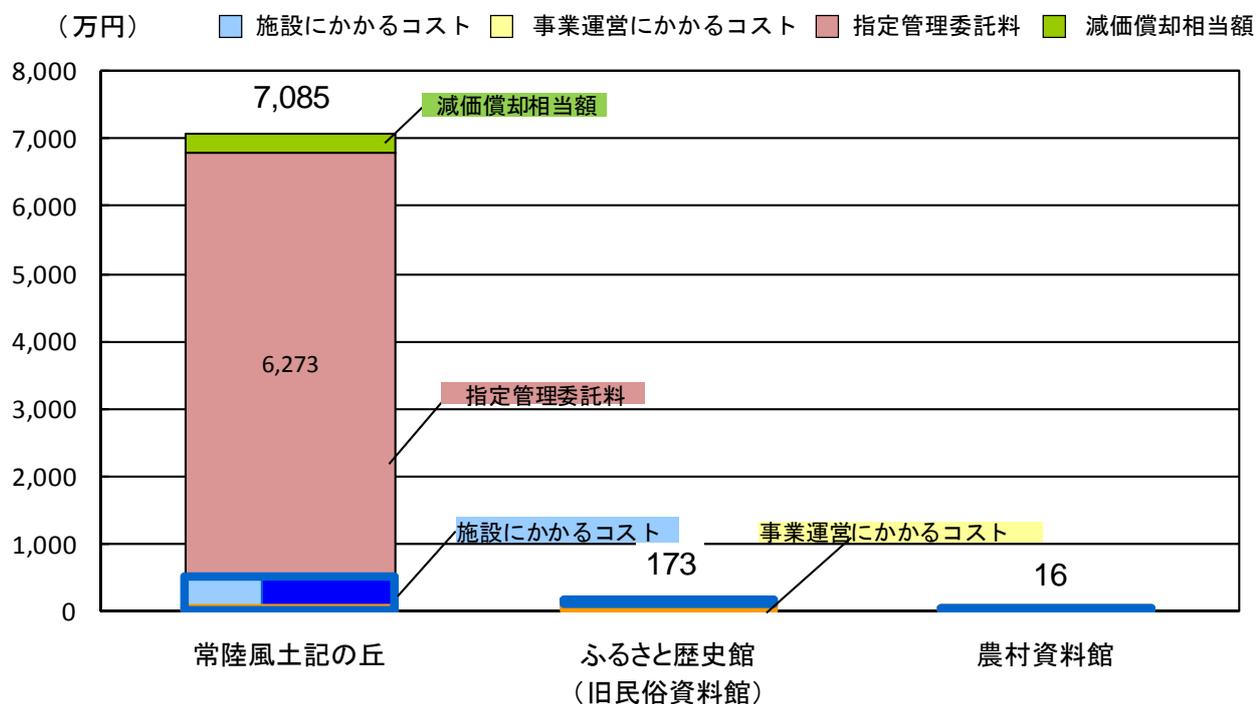
I. 現金収支を伴うもの【コストの部】		常陸風土記の丘	ふるさと歴史館 (旧民俗資料館)	農村資料館	合計
施設にかかる コスト	光熱水費		329		329
	委託費		283	117	400
	使用料及び賃借料	4,974			4,974
	施設にかかるコスト	4,974	612	117	5,703
事業運営に かかるコスト	委託費		822	36	858
	その他物件費	196	294	10	500
	事業運営にかかるコスト	196	1,116	46	1,358
指定管理委託料		62,728			62,728
現金収支を伴うコスト 計		67,898	1,728	163	69,789
【収入の部】					
収入	諸収入				
収入の合計					
II. 現金収支を伴わないもの					
コスト	減価償却相当額	2,947			2,947
III. 総括					
コストの部合計(トータルコスト)		70,845	1,728	163	72,736
収支差額(ネットコスト)		70,845	1,728	163	72,736

図 全施設トータルコスト (平成 26 年度)



施設別のトータルコストでは、常陸風土記の丘が7,085万円で、ふるさと歴史館が173万円、農村資料館は16万円となっています。

図 施設別トータルコスト（平成26年度）

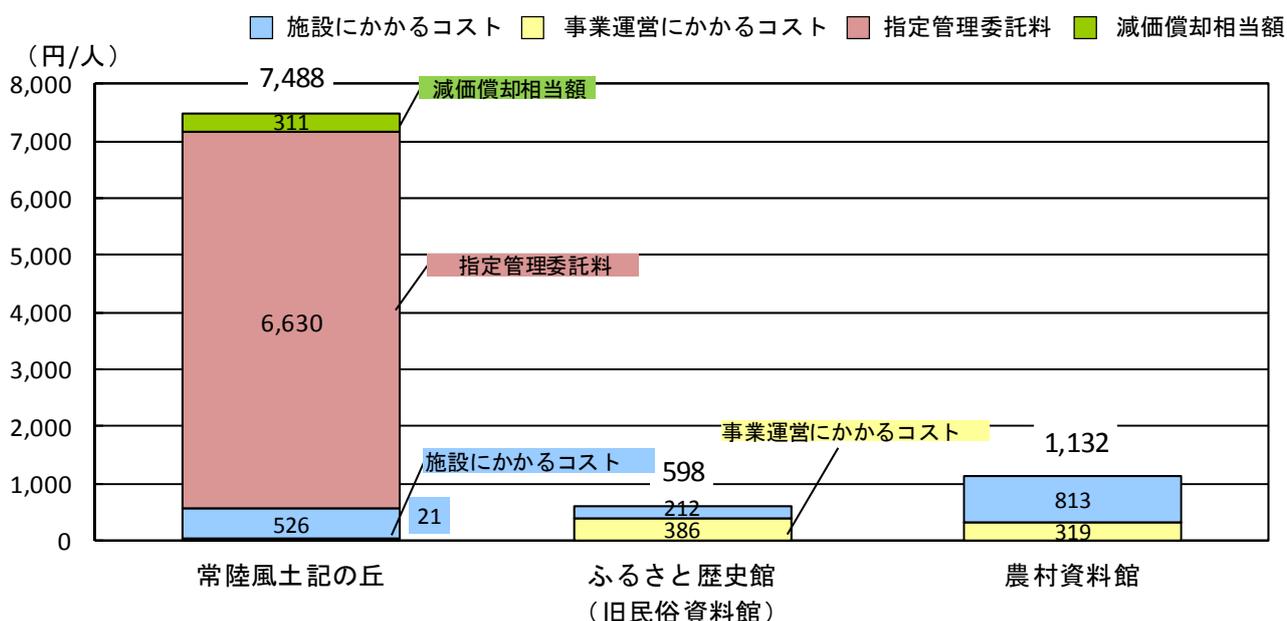


### 3) 評価・分析

#### ■ 利用者1人当たりのコスト

年間利用者数とトータルコストから利用者1人当たりにかかるコストを算出すると、常陸風土記の丘が最も高く7,488円/人、ふるさと歴史館が最も低く598円/人となっています。

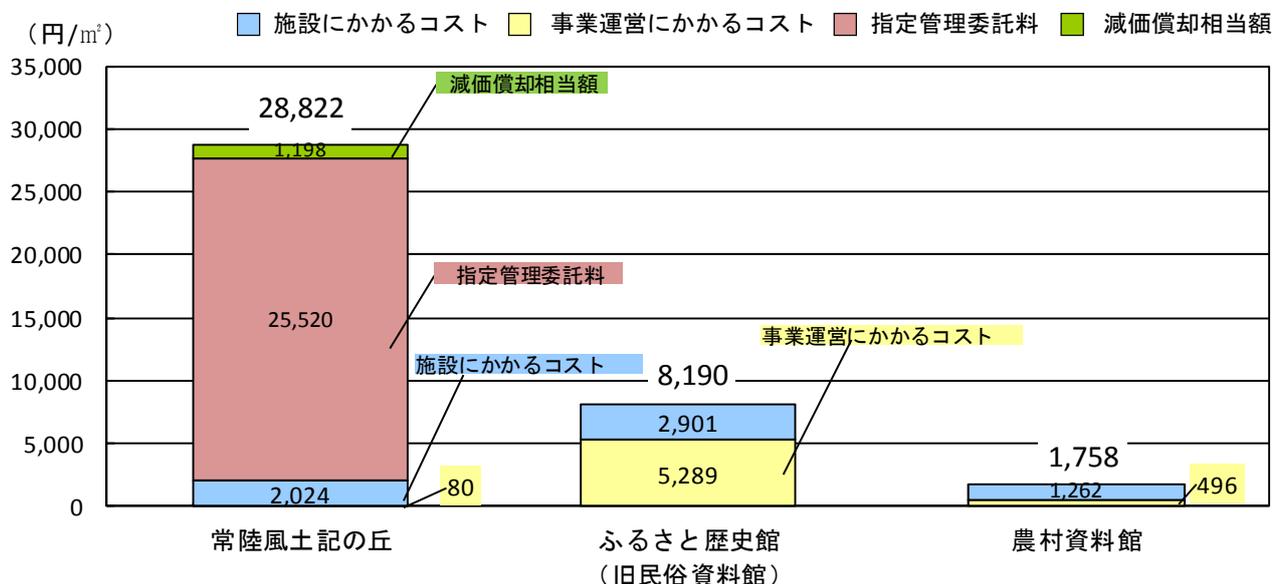
図 利用者1人当たりのコスト（平成26年度）



## ■ 床面積 1 m<sup>2</sup>当たりにかかるコスト

床面積とトータルコストから床面積 1 m<sup>2</sup>当たりにかかるコストを算出すると、常陸風土記の丘の 2 万 8,822 円/m<sup>2</sup>から農村資料館の 1,758 円/m<sup>2</sup>となっています。

図 床面積 1 m<sup>2</sup>当たりのコスト（平成 26 年度）



## 4) 今後の検討の視点

### ■ 施設に関する視点

- ふるさと歴史館及び農村資料館は築 40 年を超えており、大規模改修等の早期の老朽化対策を検討する必要があります。
- 保有施設には歴史的建造物も含まれ、所蔵資料等とともに、適切な保存・管理が必要です。

### ■ 利用に関する視点

- 常陸風土記の丘以外は、あまり利用が多いとはいえない状況と考えられますので、今後これらの利用状況をどう考えていくのか、施設の利用方針を定める必要があるものと考えます。

### ■ コストに関する視点

- 常陸風土記の丘では、指定管理委託料がトータルコストの約 89% を占めています。また、利用者 1 人当たりのコストは割高になっており、このような利用状況におけるコストパフォーマンスが課題と考えられます。